



平成 25 年 12 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 新 日 本 科 学
代 表 者 名 代表取締役社長 永田 良一
(コード番号：2395 東証第一部)
問 合 せ 先 代表取締役副社長 関 利彦
(TEL：03-5565-6216)

京都大学 iPS 細胞研究所との共同研究の進捗に関するお知らせ

- iPS 細胞を用いたパーキンソン病再生医療のための安全性研究 -

株式会社新日本科学（本社：東京都中央区、社長：永田良一、以下「新日本科学」）と京都大学 iPS 細胞研究所（研究所：京都市、所長：山中伸弥、以下「CiRA」）は、平成 25 年 2 月 13 日付けで「人工多能性幹細胞（iPS 細胞）¹⁾由来神経細胞による脳移植治療実現化に向けた安全性試験法の確立」について共同研究契約を締結し、iPS 細胞由来のドパミン産生ニューロンを用いたパーキンソン病²⁾治療の安全性評価を進めております。このたび、本共同研究の一環として、また、CiRA の高橋淳教授が平成 27 年に開始を目指している自家移植³⁾による臨床研究の安全性を担保するための非臨床試験として、CiRA において造腫瘍性試験⁴⁾を開始したことをお知らせいたします。また、新日本科学と CiRA は、本試験結果をもとにさらに他家移植³⁾を想定した造腫瘍性試験等についても検討を進めていく予定です。

なお、本件は当社グループの今期業績に直接影響するものではありません。

以 上

【用語説明】

¹ iPS 細胞

人工多能性幹細胞 (induced pluripotent stem cell : iPS 細胞) は、ヒトの体細胞に少数の遺伝子を組入れて培養することにより、様々なヒトの器官や組織に分化する能力を持つ細胞で、ほぼ無限に増殖する能力を持ちます。iPS 細胞は、病気の原因解明の研究、新薬の研究開発、移植治療などの再生医療に活用できると考えられています。

² パーキンソン病

脳の黒質というところの神経細胞数が減少し、神経伝達物質であるドパミンの産生が減少することで生じる病気です。症状として、手指のふるえ、動作緩慢、小刻み歩行などが発現します。現在、治療法としては、不足しているドパミンを補うことで症状を緩和する補充療法薬が主に使われています。しかし、この治療法では、服薬しているときは症状が良くなるものの、服薬を止めれば症状は元に戻ってしまいます。別の治療法として手術もありますが、これも一時的な対症療法にしか過ぎず、現時点では根本的な治療法はありません。

³ 自家移植／他家移植

患者さん本人から細胞を採取して、移植する方法が自家移植、患者さん以外から細胞を得て移植する方法が他家移植になります。

⁴ 造腫瘍性試験

再生医療に使用する細胞を動物に移植し、腫瘍化の有無を確認するための試験です。